

白子高校 PTA 通信

No.96 2022.7 発行 三重県立白子高等学校 PTA

ご 挨拶

PTA会長 片岡 聖子



こんにちは。令和四年度 PTA 会長をさせて頂いております片岡です。日頃、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、制限を余儀なくされ、厳しい条件にもかかわらず、PTA 活動におきまして皆様方のご理解とご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

未だ収束することなく従来様々な活動が中止や実施未定となる中、新しい生活様式を取り入れることで、少しずつ日常生活を取り戻しつつあるようにみられます。今まで感じなかった「出来ることの喜び」に感謝するようになったと

思います。

高校生活は子ども達にとって最も多感で、自立に向けて心身共に基礎を築き上げる大切な時期だと思います。しかし入学当初からマスク必須、手洗い必須、三密の回避、新しい生活のスタートでした。今ではうまく使いこなせてきている生活に慣れてきたと思います。数年後「あの頃は大変だったね」と皆で笑い話に変えるような臨機応変に対応できる力を付けて高校を卒業することを願っています。そんなお手伝い出来る PTA 活動をすすめていきます。そして、もっと分かりやすく、不要なものは省き、必要な物に重点的に活動ができるように努めたいと思います。今年度も変わらぬ PTA 活動へのご協力をお願いします。

東海地区高等学校 P T A 連合会 愛知大会

令和4年6月17日(金)名古屋市公会堂大ホールにおいて『東海地区高等学校 PTA 連合会愛知大会』が開催されました。講演会では、講師宮本信治先生による「オール1の落ちこぼれ、教師になる」、研究協議においては「地域の自然と親しみ、活用する PTA 活動(愛知県立尾西高等学校 PTA 会長 柴田純子さん)」、「コロナ禍での PTA 活動(三重県立四日市商業高等学校 PTA 会長 伊藤栄紀さん)」、2校の取り組みが発表されました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各校1名の参加となり、本校からは学校長に参加していただきました。



着任のご挨拶と高校生を取り巻く環境の変化について

校長 山口 雅弘



P T A 会員の皆様方におかれましては、平素より本校の教育活動にご支援とご協力をいただきまして誠にありがとうございます。この4月に着任し、一昨年度学校創立

百周年を迎えた歴史あるこの白子高等学校で働くことに責任と喜びを感じているところです。白子高校の生徒のみならず、保護者等や地域の方々が誇ることができる学校となるよう尽力していきますので、どうぞよろしくお願ひします。

さて、令和4年度が始まりました。社会的情勢の変化は多々ありますが、今年度より高校生に大きく関連することとして、新学習指導要領の実施と成年年齢引き下げがあります。

新学習指導要領では、これまでの学校教育の実践や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指しています。このため、全ての教科等において①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力、人間性等の3つの柱で再整理し、資質・能力をバランスよく育成することとしています。また、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることや、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立により組織的・計画的に教育活動の質を向上させること、資質・能力の3つの柱に対応した3つの観点に基づき学習評価を改善することを求めています。また、ICT環境整備・活用の充実のため、高等学校における1人1台端末の環境整備に向け、今年度入学生より学習端末の購入をお願いしたところです。今後はこの端末を学習ツールの一つとして有意義に活用していけるよう取り組みを進めていきたいと考えています。

もう一方の成年年齢引き下げについては、この4月から、現行の20歳から18歳に引き下げられました。近年、公職選挙法の選挙権年齢や憲法改正国民

投票の投票権年齢を18歳と定めるなど、18歳、19歳の若者にも国政の重要な判断に参加してもらうための政策が進められてきました。こうした中で、市民生活に関する基本法である民法でも、18歳以上を大人として扱うのが適当ではないかという議論がなされ、成年年齢が18歳に引き下げられることになりました。なお、世界的にも成年年齢を18歳とするのが主流となっています。約140年ぶりに成年の定義が見直されることで、何が変わるのか、私たちの暮らしにどのような影響がもたらされるのか、しっかりと捉えて対応していく必要があります。

成年年齢の引き下げは、若者の積極的な社会参加を促すなどの重要な意義を有するものです。このため、高校生が、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や社会の形成に主体的に参画するための資質・能力を身に付けることは極めて重要です。一方で、保護者の同意なく、自らの意思のみで契約を結ぶことができることから、消費者として被害を受けることも懸念されています。学校では、これを見据え、新学習指導要領の家庭科に盛り込んだ「契約の重要性」や「消費者保護の仕組み」に関する指導内容を前倒しして、その実施等に取り組んできたところです。4月からは、新しい必修科目「公共」や、「家庭科」の新しい教科書で、一層充実した教育を進めてまいります。また、今後とも関係団体等とも連携を取りながら、消費者教育の取り組みを着実に進めていきたいと思ひます。

高校生たちは、「非連続的」と言えるほど急激に変化する社会に羽ばたいていくこととなります。高校生が多様化する中であって、生徒達が、その能力・適性、興味・関心等に応じた学びを通じて、多様な他者と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となっていくために必要な資質・能力を身につけることが極めて重要です。一人ひとりの生徒を主語とした高等学校教育の実現に向けて、今後とも、皆様より一層のご理解・ご協力を心から願ひ申し上げます。

生徒指導の現状

生徒指導部 奥田 亜紀子

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

本校はルールの厳しい学校といわれています。厳しいルールの高校生活の中で良識のある人に成長してほしいと願っているからです。生徒指導部では①基本的な生活習慣を確立させる②判断力を持ち、自ら考えて行動できる人材の育成③校則を守り、マナー・モラルを身につけさせる④安心と安全を感じることでできる学校づくりを柱に指導をしています。

本校では挨拶をととても大切にしています。朝の挨拶はもちろん、校内ですれ違う時も挨拶を交わします。私はできるだけ自分から先に挨拶をすることを心掛けています。挨拶には先生も生徒もないと考えます。人とのコミュニケーションの第一歩なので気づいた方から挨拶をすればいいと思います。昨年、この通信で朝の登校時に生徒が道を横断しようとした際、車の方が止まっていたにもかかわらず、生徒は私に「おはようございます」と挨拶をしたので、私は思わず「否、ちがうよ。まずは止まっていた車の方へお礼が先だよ」と声をかけたという話を載せました。そして、集会時に挨拶も大切だけど、物事には順序があり、何を優先すべきかを考えて行動できる力を身につけてほしいと生徒らに伝えました。それから1年、生徒の登校時の姿に変化が見られるようになりました。この仕事のやり甲斐を感じるところで嬉しく思います。

交通安全についてはほとんどの生徒がルールを守って登校しています。白子駅から本校までの通学路は歩道がなかったり狭かったりするところがあります。そこを広がって歩いたり、友達と一緒に登下校すると楽しいあまり、大きな声で話しながら歩いて地域の方からご意見をいただくこともあります。もっと周囲へ配慮できる生徒になってほしいと思います。また、自転車盗難防止のため、必ず自転

車を施錠することをルール化しています。毎朝の登校指導時に施錠確認を行い、未施錠自転車の生徒に対して注意をし、2回以上の施錠忘れがあった場合は、翌日から数日間、駐輪場の自転車整列の奉仕作業をする指導をしています。校内での自転車盗難はありませんが、駅周辺では自転車盗難が多発していると聞きます。いつでもどこでも施錠するといった習慣を身につけて自転車盗難の防止につとめていただきたいと思います。近年、自転車利用者が加害者になる事故が増加しています。傘差し運転・携帯電話・音楽機器等の操作をしながらの運転、二人乗りなど絶対にしてはいけません。命にかかわる重大な事故になり得ることを認識していただきたいと思います。

自動車普通免許取得については、3年2学期中間考査終了後から進路が決定した生徒に自動車学校の通学許可をします。学校で諸手続をして、絶対に無許可で免許取得をさせないでください。

問題行動については、近年、さほど大きな問題は起きていません。しかし、軽微なルール違反（携帯電話の不適切使用・頭髮服装の規定違反など）が少なからず発生しています。最近、SNSの不適切な使用が社会問題になっています。それに起因する誹謗中傷が「いじめ」につながる場合があります。全校集会、学年集会、アンケートなどを利用して啓発や実態の把握に努め、全教員で注意深く見守っています。ご家庭でも話題にいただき、何かあれば是非学校に連絡をいただければと思っています。

生徒指導部では、学校生活を通じて人との関わり方、ルール遵守の大切さを理解させるなどして子どもたちの社会性や人間性を高めていきたいと願っています。そのためには保護者の皆様のご理解ご協力は不可欠であるとも思っています。今後ともよろしくお願いたします。

進路指導室より

進路指導部 中西 和弘

【3年生進路希望状況（2022年5月）】

	男子	女子	合計
四年制大学	38	22	60
短期大学	4	17	21
専門学校	17	52	69
就職	26	36	62

【企業の方々とお話から】

今年度は進路指導部を訪れるお客様がひっきりなしです。各地区の企業との情報交換会や、学校から企業への訪問も再開しています。

それらの機会にうかがったお話によると、本校から希望者の多い製造業では、「昨年より多く採用したい」という企業が増えています。飲食、販売、ホテル関係においても、「業績がかなり回復してきたので以前の求人に戻していきたい」というお話を多数聞きました。新型コロナウイルス感染症の影響は、まだ安心できないものの、明るい兆しも見えてきています。

企業の人事担当の方からよくうかがう、高卒生採用時に重視する点の一つが、「素直さ」です。ただし「素直」とは、「黙って言うことに従っていればいい」ということではありません。「素直」であるということとは、「相手の話にしっかり耳を傾け」、自ら貪欲に吸収し、成長しようとする「主体的な」姿勢を持っているということです。そうして獲得したスキルを踏まえ、最先端の知識を「自分で学んでいける」ようになるのです。生徒の皆さんには、「礼儀正しさ」や「素直さ」といった、白子高校生のもつ良さを伸ばし、より人間性を磨いていってほしいと思います。

保護者等の皆様も、ぜひ社会人としての立場から、働くことに対するご助言をお子さまにさせていただけたらと思います。

【新学習指導要領の実施】

本年度入学の1年生より新学習指導要領が実施されています。これは、グローバル化し、技術や産業の進化のスピードが速まるこれからの社会で求められる力を踏まえたものです。大学入学共通テストを始めとした入試にも、既にその影響は出始めています。

新学習指導要領の柱は、「学びに向かう力・人間性」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」です。つまり、これから社会で求められるのは、「自己の学習

を振り返りながら自分自身で学び続け」、「いろいろな人たちと協働して」、「新しいことにチャレンジする姿勢」を持った人物といえます。

本校からの進学受験は総合型選抜や学校推薦型選抜によるものがほとんどです。そこでは学力だけでなく、学問に対する興味・関心や自ら学ぼうとする主体性も評価の対象になります。志望する学校・学部・学科や学びたい学問・分野の研究も欠かせません。

まずは高校時代にさまざまなことにチャレンジし、そこから自分の学びたいことを見つけてください。また、ぜひ夏休みを利用して、オープンキャンパスなどにも足を運んでください。各校の入試担当の方によると、「近年は親子で訪れる方が増えた」ということです。保護者等の方と参加することで、大人の視点からのアドバイスもできると思いますし、親子で進路について話し合うよい機会にもなると思います。

【マスクについて】

面接試験もコロナ禍により様変わりしています。例えばマスク着用やオンライン面接などです。マスクをつけたままでは表情がわかりづらく、声がこもります。また、パソコンの画面越しでは、表情が伝わりにくくなります。本校では、その対策として、笑顔やうなずきを上げさにしよう、ゆっくり、はきはきと話そう等の指導をしてきました。

面接試験において、企業は話し手の「表情」を見て人柄を判断します。相手に自分の思いを伝えるためにも、マスク越しでも表情豊かに話すことを日頃から心がけることが必要かと思えます。

今後、コロナ禍が収束に向かうにつれ、人前でもマスクを外す機会が増えてくるかもしれません。その一方で先日ある新聞に、「マスク姿が定着し、素顔を見せることに抵抗を感じる人たちが若い世代で増えている」との記事がありました。本校生にもマスクを外すことで逆に普段どおりの振る舞いができなくなるということが起こるかもしれません。

保護者等の皆様には、顔を合わせて話ができる近親者の立場から、ありのままの自分を見せることは決して恥ずかしいことではないのだと、お子さまにアドバイスをさせていただけたら幸いです。

「挑戦」の日々のはじまり

1 学年主任 為永 夕

平素は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

入学式での桜吹雪が随分以前のことに思えるほど日々様々な出来事が起こり、生徒たちが着実に成長・変化していることを感じるこの頃です。4月当初には、職員室来室時の挨拶もぎこちなかった生徒たちが、今は潑刺とした声で用件を伝えられるようになってきました。また、初めての中間考査を経て、授業への取り組み方や課題提出のルール等にも一定の理解が定着してきています。更には、各クラブも本格的に活動を始め、新たな人間関係が広がっています。特に5月末の総合体育大会に出場した部活動では、上級生たちの活躍を目の当たりにして、憧れを強くするとともに自分自身の目標が見えてきた生徒もいるようです。これから、1学期の期末考査、クラスマッチ、夏休みを経てますます充実した高校生活となっていくことが期待されます。

さて、この間に行われた幾つかの行事について簡単にご紹介します。

遠足

4月22日、心地よい陽射しと新緑の中、鳥羽水族館と伊勢おはらい町へ出かけました。こうした機会に少しでも新しい仲間を増やしてほしいと考え、学年全体でフォトコンテストも実施することにしました。募集部門は「動物」「食べ物」「集合写真」の3つ。クラス内で編成したグループごとでの応募としました。グループのメンバーで協力して撮影、相談して応募した作品の数々には、当日の色鮮やかな場面がたくさん映し出されていました。後日、オンライン上のclassroomで投票し優秀作品の表彰をしました。(紙面の都合上、そのうちの優勝2作品のみここに掲載します) ②食べ物部門：2組E班

①集合写真部門：3組D班



中間考査

5月16日から4日間実施されました。試験結果は成績個票としても各生徒に配付しています。点数に一喜一憂するだけでなく、自分の学習状況をよく振り返り、次の取り組みの改善へとつなげられるようにしてほしいと考えています。そのためにも、一人ひとりに用意した「ポートフォリオ・ファイル」を用いて毎回の試験結果を記録し、自身の変化を中長期的に捉えられるようにしています。このファイルは、中学校から引き継いだ「キャリア・パスポート」の一環でもあり、3年生まで引き継いで進学や就職の準備時に活用します。

体育祭

雨天により1日延期して6月2日に開催しました。爽やかな青空のもと、クラスそれぞれのカラーのTシャツが華やかにグラウンドを彩りました。100m走や高跳びといった個人競技で活躍するクラスメイトの姿に感動したり、白熱するクラス対抗競技(綱引きやリレー)に思わず立ち上がって拍手を送ったり・・・感染防止対策が続く中これまで通りとは行かなくても、選手と応援側とが一体になる場面には変わらない盛り上がりがありました。1年生では4組の総合得点が最も高く、全校での3位入賞を果たしました。

6月末からは期末考査が始まりました。そして(普通科吹奏楽コース以外の生徒は)7月早々には2年生でのコース選択に向けた準備が具体化し、9月には科目登録を行います。これから夏休みが終わるまでの期間に、いかに有意義な「挑戦」を重ね、自分の適性や得手不得手を見極められるかが、後悔のない進路選択への第一歩となります。日々の学習や部活動はもちろんのこと、校外で開催されるインターンシップやオープンキャンパス等にも積極的に参加されることをお勧めします。またご家庭での対話や相談の時間を大切にいただくことが、進路決定において大変重要な意味を持ちます。今後とも生徒たちの「挑戦」を支えてゆけるよう、ご協力の程よろしく願いいたします。

2022 年度 白子高校人権教育の推進に向けて

人権教育推進担当 前川 誠

今年度より、本校の人権教育推進係を担当しています。どうぞよろしくお願い致します。

さて、新型コロナウイルスの感染拡大は、発生後、その影響が私たちの生活のいたるところに現れ、多くの課題や「人権問題」といってよい事象がたくさん起きました。

生徒や職員、一人ひとりの手洗い、うがい、手指消毒などの感染予防やマスク、ワクチンに関する正しい知識や理解は得られたと考えます。しかし、行政による医療逼迫を回避する目的で行われた行動制限や報道機関等による扇動的な情報過多は、人々の社会生活上の不利益や不安、ストレスなどを増大させる要因となり、社会的なパニックを作り出してしまいました。

新型コロナウイルス感染症については、すでに関係機関・大学・研究所等で研究が進んでおり、その特色や対応・対策などの方法は、ほぼ解明されています。今後も、感染の再拡大時において、医療逼迫を理由に国民生活を制限するという政策が継続されるならば、業績の悪化している企業で働いている人々やその家族の生活や命をさらに奪ってしまうことが懸念されます。

いわゆるコロナ禍の最大の問題は、医療政策及び医療資源配置の硬直性と脆弱性にあることが指摘されています。政府や都府県の法制度的・人為的な設計不良に起因するところの諸々の感染症拡大防止対策やメディア報道は、コロナ禍をいたずらに増長させてしまったと思われます。

また、昨今の国際情勢に目を向けますと、2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻は、武力の行使を禁ずる国際法に違反するとともに、力による一方的な現状変更を認めないという第二次世界大戦後の国際秩序の根幹を揺るがすものであり、容認できるものではありません。

戦争は、最大の「人権侵害」であるとともに、国家権力による「人権蹂躪」であるといつてよいでしょう。悲惨なウクライナの現状を見るまでもなく、戦時下においては、人権は掃き飛ばされ、無視される軽々としたものとなってしまいます。戦争という有事の際に、私たちの存在は微力です。

しかし、「これって、おかしいやん！」という行為に対して、お互いに言い合える真の仲間づくりや関係づくりができるような触発を日々の教育活動において行うことが、学校・教員に課された使命です。地道な取り組みの積み重ねが、国際政治の舞台にも繋がっていることを信じたいと思います。ロシアとウクライナの関係においては、その基本である相互に対等に言い合える二国間関係が、構築されていなかったことが悲劇となっています。

三重県では、人権教育の目的を「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動ができる力を育み、人権文化を構築する主体者づくりをめざす」としています。本校の人権教育においても、めざすところは同じです。今後ともご理解とご協力をお願い致します。

ほめられて育ちたい

スクールカウンセラー 市川 倫子

スクールカウンセラーの市川です。毎週木曜日の午後、本館3階の相談室におります。一人で悩まずに、「人に相談できる力をつけてほしい」をモットーに、

広くいろいろな方（生徒、保護者等）に相談を呼び掛けています。

青年期の後半に差しかかっている高校生という年代

は、やや対人関係に苦手意識が出てくる（40%ぐらいの生徒さんに現れるようです。別のデータでは、51%という論文をみました。病的な意味での社交不安症ではありません）といわれています。大人になり社会に出れば、心理的にも成長し、慣れも手伝ってほとんど消えてしまうといわれていますが、大人になる準備真っ只中の高校生にとっては大変悩ましい問題です。そんな状態の子供たちは、自信を無くしています。「何をやっても叱られる。」「知らんぷりされる。」「・・・ネガティブな言葉が出てきます。ネガティブな感情が高まります。では、最近褒められたことは？ときくと、「褒められたことなんかない。」「うれしかったことを家で話しても、イヤミで返される。」等々、残念な状況があります。そういえば私も親に褒められたことなんかなかったよなあ、と思い出したりもするのです。

かつて（私が就職したての頃、ウン十年前のことですが）、先輩の先生に「成績の良い子を励ますのは、本人がこれでいいんだと思ってダラけてしまうから、良くない。どんどん叱咤激励の方がよい。」といわれたことがありました。褒めることは本人のためにならない、世の中全体がそういう風潮だったようです。でも、私は褒められたい。この年になっても褒められたいです。きっと子供たちも皆そう思っているはずですよ。

こんな研究結果があります。ハーロックという研究者が、小学生を3つのグループに分けて実験を行いました。算数のテストを5日間実施しました。Aグループは、毎日どんな得点でもよくできていたところをほめる。Bグループは、毎日どんな得点でもできていないところを叱る。Cグループはどんな得点でも何も言わない。

その結果が、右のグラフです。ほめられたグループは成績が71%上昇しました。どんどんほめましょうということですね。

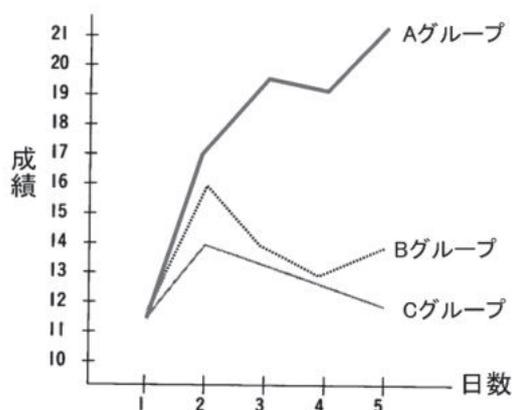
「でも、褒めることがないんですよ。」「どう褒めた

らいいのか・・・」いえいえ、褒めるところはいっぱいあります。例えば、こんなことを言って嘆いている生徒さんがいました。「数学のテストがあって、クラスで三番だったから夕ご飯の時にそれを言ったら、『一番じゃないんだ』と言われた。」まさに、数十年前に私に教えてくれた先輩先生の言葉「成績の良い子を励ますのは、本人がこれでいいんだと思ってダラけてしまうから良くない。どんどん叱咤激励の方がよい」どおりでした。褒めましょう！褒めたら、慢心して勉強をさぼるということはありません。「わあ。すごいね。お母さんそんな成績とったことがないわ。うれしい！」最後の「うれしい」が子供の心に一番響きます。

成績が上がってなくても、下がってはいないと考えれば、現状維持であることも十分褒める材料です。

「体調がよくなかったのに、よく頑張った。」「部活が大変なのに、成績が下がっていないのは、日ごろから頑張っているんだね。」

でも、褒めるってやっぱり難しいです。褒めることが口癖になったら素敵なのですが、しばらくは気を付けていいところ探しの練習がいると思います。お手伝いをしてくれたら、もうちょっと丁寧にやってほしいと思っても、「ありがとう。助かったわ。」と頑張ってみる。そんな小さなことの積み重ねが褒め上手になっていくのだと信じています。



生活創造科から新たな地域連携を

生活創造科 鈴山 いずみ

平素より本学科の教育活動にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本学科は、家庭技芸科として発足して以降、様々な改編を経て、現在の「生活創造科」となり、今年で18年目を迎えました。心豊かなライフスタイルを創造(クリエイ

ト)する力を身につけることを目標とし、2年次からの服飾・食彩の両コースの授業では、県内外の専門学校や地域のプロフェッショナルを招いて調理・製菓・製パン、陶芸・伊勢型紙・テーブルコーディネート・デザイン画・ウォーキングなど、

特別講義や講習会の機会を多数設け、衣・食の専門性を追求するよう力を注いでいます。

現在、1年生はICTを用いた学習に向けて自分専用の端末を持ち、設定や操作をはじめ、課題をファイルで提出するなど奮闘中です。また、はじめての検定に向けて実習授業で黙々と課題に取り組んでいます。2年生は、コースに分かれての授業がスタートし、専門知識と一段高いレベルでの技術を身につけるべく実習に取り組んでいます。3年生服飾コースは、夏休み前に検定の洋服1級を受検予定としており、さらに2学期に臨むファッションショーに向けてドレス制作をするなど、大変めまぐるしい1学期を過ごしております。3年生食彩コースは、製菓コンクールの作品製作に取り組み、先日応募したところです。

今後の予定ですが、2学期末には全学年とも検定の実技試験に向けて集中的に練習することになります。学校の授業時間内だけでなく、放課後の自主練習や課外での指導をさせていただくことが予想されます。また、ご家庭においての練習などが必須となって参ります。どうか、あたたかくご支援いただき、激励のお声がけをよろしくお願いいたします。

さて、新型コロナウイルス感染拡大の影響が続く、感染予防対策を徹底した上での授業・実習を

行っており、まだまだ制限のある教育活動となっておりますが、生活創造科家庭クラブの一大行事である「春の高齢者お弁当サービス」を2年ぶりに実施することとなりました。地元白子地域の皆様を楽しみにいただいている行事であり、地域連携の要として大切に考えて参りました。民生委員の方々のご協力をいただき、1年生から3年生まで全員で書いたお手紙を添えて3年生が直接お届けにあがることといたしました。また、今年から、地域の「子ども食堂」の活動にも参加し、地域交流・研究活動をさらにすすめていこうと計画しております。

これまで生活創造科は、授業や放課後の活動をはじめ、イベントや家庭クラブ活動などにおいて、多くの方々に支えていただいていた歩んで参りました。

私たちは常に感謝の気持ちを忘れず、今年度も生徒達が生き生きと活動できる環境づくりに全力を尽くし、さらなる地域貢献を目指したいと考えております。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



食彩コースの調理実習
(製菓講習会の様子)



服飾コースのドレス製作実習
(ファッションショーに向けて)

文化教養（吹奏楽）コースについて

普通科文化教養（吹奏楽）コース主任 齋田 努

文化教養（吹奏楽）コースの主任を担当しています齋田努と申します。本年度は、新しく迫田哲治先生を迎え3名体制で運営しています。

昨年度より新たな取り組みとして、地域での依頼演奏を吹奏楽コース名義で参加しています。主に3年生の重奏の授業で取り組んでいるポップスを中心とした内容を聴いていただいています。これまで2回の演奏会のみであった授業発表の機会を増やすということと吹奏楽部ではなく、県内唯一の吹奏楽コースをもっと皆様に知っていただくことを目的としています。地域の多くの方々に、吹奏楽コースをより知っていただくことで、志望数増加に繋げていきたいと考えてい

ます。吹奏楽を取り巻く環境は、非常に厳しく、コロナ禍において、中学校の部員数も大幅に減っています。県内高校においては、この2年間で約400名の部員数減となっています。この逆風状態に負けることなく、志願者数増に努めていきたいと思ひます。

昨年度は、音大進学に対する補習に積極的に取り組んだ結果、久しぶりに愛知県立芸術大学音楽学部への合格者が出ました。また、クラブ推薦という形で吹奏楽強豪校である東海大学へも合格致しました。生徒のニーズに応じた進路実現が出来るよう、コースとして進路指導に力を入れていきたいと考えています。

令和4年度 三重県高校総合体育大会結果

【女子テニス部】

(団体) 1回戦 白子 0-3 津

【男子テニス部】

(団体) 1回戦 白子 1-2 名張

【女子ハンドボール部】

1回戦 白子 14-19 名張

【男子ハンドボール部】

1回戦 白子 41-10 名張
2回戦 白子 13-32 いなべ総合

【陸上部】

男子 100m 予選敗退

【男子バスケットボール部】

《中地区予選》

3回戦 白子 73-65 津東
準決勝 白子 50-53 鈴鹿高専
3位決定戦
白子 84-46 伊賀白鳳

《県大会》

1回戦 白子 66-76 津田学園

【野球部】

《春季大会中地区予選》

1回戦 白子 4-3 久居
2回戦 白子 2-9 鈴鹿
敗者復活1回戦 白子 8-1 名張青峰
代表決定戦 白子 2-3 高田

【女子バレー部】

1回戦 白子 0-2 伊賀白鳳

【サッカー部】

1回戦 白子 0-0 名張青峰 PK負け

【剣道部女子】

(団体)

1回戦 シード
2回戦 白子 1-2 津西

【剣道部男子】

(団体) 準優勝

1回戦 不戦勝
2回戦 白子 5-0 桑名西
準々決勝 白子 1-0 鈴鹿
準決勝 白子代 0-0 四工
決勝 白子 0-3 三重
→東海総体出場

(個人) 5位 堀江 賢人
→東海総体出場



剣道部男子県大会準優勝

【女子卓球部】

(団体) 優勝 →インターハイ・東海総体出場

(S) 優勝 山脇 ゆき
2位 由井 心菜
3位 竹原 優菜
→インターハイ・東海総体出場
6位 西村 玲美
→東海総体出場



卓球部女子県大会優勝

(D) 優勝 山脇 ゆき・由井 心菜
2位 相坂 桃子・竹原 優菜
→インターハイ・東海総体出場
4位 大畑 ひなた・西村 玲美
→東海総体出場
5位 松尾 和奏・竹原 優梨

【男子卓球部】

(団体) 優勝 →インターハイ・東海総体出場

(S) 2位 宮崎 礼央
3位 松尾 尚紀
4位 春日井 健真
→インターハイ・東海総体出場
5位 山野 煌介
6位 小倉 裕貴
7位 中野 圭斗
8位 野島 翼
→東海総体出場

(D) 優勝 宮崎 礼央・春日井 健真
→インターハイ・東海総体出場
3位 林 誠也・山野 煌介
→東海総体出場
5位 古田 諷・小倉 裕貴
5位 松尾 尚紀・中野 圭斗
5位 高橋 陸・野島 翼



卓球部男子県大会優勝

東海総合体育大会結果

【剣道部男子】

(団体) 予選リーグ 敗退

(個人) 堀江 賢人 1回戦敗退(中京高/岐阜)

【卓球部男子】

(団体) 第3位

(D) 宮崎 礼央・春日井 健真 ベスト8

【卓球部女子】

(団体) 準優勝

(S) 山脇 ゆき 第3位

由井 心菜 ベスト8

(D) 山脇 ゆき・由井 心菜 第3位